

5 月例会「ぼくたちの家族」

定例総会について

2015 年度定例総会議案の要旨

このニュースの発行日 4 月 28 日(火)の午後 7 時から、**2015 年度の加古川シネマクラブ定例総会**が行われます。したがって、まだ、議案は議決されていませんが、ホームページなどで公開している議案どおりに議事が進行することを仮定して、ここでは、主に今年度の活動の要旨を説明します。

まず、2014 年度の活動報告と決算報告については、例会を中心とした通常どおり活動が行われ、事業内容についてはあまり問題が無いのですが、会員減のため、実質的な赤字体質に陥ったことが大きな問題です。

役員を選任については、概ね昨年度と同様ですが、各人の都合により監査委員の交代など若干の変更があります。

2015 年度の活動計画と予算については、通常の例会の活動に加え、加古川シネマクラブらしい活動として、加古川出身の**姫田真佐久撮影監督**の生誕 100 年を記念しその活動を顕彰するため、代表作のひとつである『**キューポラのある街**』の上映会を、11 月に特別例会として開催する計画があります。

また、昨年度から行っている明石シネマクラブとの交流事業である、それぞれの例会に両会の会員が参加できる例会相互参加事業は引続き継続される予定です。

勿論、会員の増加がなければ、この会の存続は難しくなってきますが、できる限りまで耐え忍びながら、引き続き、ロコミやチラシの配布や会員の勧誘、特別例会への参加呼びかけ、補助金事業探し、その他、地域の映画関係事業への協力など、会員の皆さんご協力をお願いいたします。

例会のお知らせ

■名称／第 78 回例会『ぼくたちの家族』

■日時／5 月 13 日(水) ①PM 2:00—、②PM 4:20—、
③PM 6:40—

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩 10 分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で 4 箇月分の会費(2000 円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】



ぼくたちの家族

■タイトル／ぼくたちの家族

■監督・脚本／石井裕也

■出演／妻夫木聡、原田美枝子、池松壮亮、長塚京三、
黒川芽以、ユースケ・サンタマリア、鶴見辰吾、
板谷由夏、市川実日子

■データ／2013 年、日本、117 分、ドラマ

■解説／「川の底からこんにちは」「舟を編む」の石井裕也監督が、早見和真の同名小説を映画化した感動の家族ドラマ。母親の余命 1 週間という突然の宣告をきっかけに崩壊し始めた家族が、ぎりぎりのところで踏み止まり奇跡を信じて奔走する姿を丁寧な筆致で綴る。出演は妻夫木聡、原田美枝子、池松壮亮、長塚京三。郊外の一軒家に暮らす自営業の若菜克明とその妻で専業主婦の玲子には 2 人の息子がいた。大手電機メーカーに勤める長男の浩介は、結婚を機に家を離れて暮らしている。一方、大学生の次男・俊平は、都内で気ままなひとり暮らし。そんなある日、母に脳腫瘍が見つかり、医者からわずか 1 週間という余命宣告を受けてしまう。突然の事態に父も浩介もどうしていいかわからずうろたえるばかりだったが…。

■石井裕也監督作品が続く 加古川シネマクラブの 5 月例会と明石シネマクラブの 6 月例会は、図らずも石井裕也監督の最新作とデビュー作という取合わせになった。

石井裕也監督は、大阪芸術大学の卒業制作として撮った『剥き出しにっぼん』が2007年 PFF アワード(ぴあフィルムフィルムフェスティバル自主制作部門)でグランプリを獲得し、そのスカラシップ(ご褒美で制作できた)作品『川の底からこんにちは』ではブルーリボン賞監督賞と満島ひかりを妻に獲得した(笑)。

PFF アワードグランプリ出身といえ、で『フラガール』の李相日監督がいるが、新しい脚本と良質の役者と映像を求めている点が似ているように感じる。

こういう監督たちには、現場を引っ張って良い作品を撮り続けてほしい。

映画歳時記 ー全国映連総会・全国映連賞贈呈式参加報告ー

4月11日、全国映連総会と映連賞贈呈式があり、東京・岩波シネサロンに行ってきました。総会は例年より少し多めの43人が参加、各地の現状を報告しあいました。共通して会員が増えない(増えているのは姫路と鶴岡)のに、みんなジタバタして明るいのが何よりでした。

贈呈式は、山田洋次監督、撮影・監督の木村大作さん、はなぶさあや監督、呉美保監督、女優賞の上白石萌音さんが本人出席で、大いに盛り上がりました。上白石さんはまだ高校生で初々しく気軽に話せる人で、これから受験勉強とか。呉監督は妊娠中にもかかわらずの参加でした。山田監督も相変わらず元気で、あれはダメこれはダメと映画館が偉そうにしているうえに、あの上映前のカメラのお化けは何ですか、とお怒りでした。大作さんのスピーチが大受けで大笑いでした。



山田洋次監督

撮ってやると言いたいんだけど、撮らせてくださいと進めている企画があるけれども、年内に何のウワサも流れなかったらポシャッタと思ってください、とのことでした。

その前日に恒例のジブリ見学に4人で行き、製作スタッフのいなくなった寂しいジブリを見、帰りに宮崎駿さんのアトリエに行くと何と本人がおりました。しばしお邪魔して談笑というか、美術館展示のための仕事がうまく進んでいないことについての言い訳をしゃべり続けておられました。途中経過の絵や資料を見せてもらいましたが、少しでもいいものにしようと心血を注いでいるらしい雰囲気は伝わってき、久しぶりにジブリ美術館にも行ってみたいくなりました。(健)

前回例会の報告

3月19日の例会では、岩手県陸前高田市で農林業を営む77歳の佐藤直志さん(津波で息子を亡くす。)が、東日

本大震災からの復興に孤軍奮闘する姿を追ったヒューマンドキュメンタリー。人物を追った内容で、役者でないため言葉が聞き取りにくいところもあったが、鑑賞者には好評でした。参加会員101人。

明石シネマクラブ例会情報

■名称／『川の底からこんにちは』(2009年、日本、112分)
■ストーリー／「上京して5年目のOL佐和子は、目標もない自堕落な生活を送っていた。ある日、父親が末期がんのため余命わずかだという知らせが入り、一人娘の佐和子が実家のしじみ工場の跡を継ぐことになる。しかし工場は倒産寸前で、労働者の中年女性たちからはいびられる毎日。追い込まれた佐和子は、生まれて初めて自分の人生を見つめ直すことになる。

■監督・脚本/石井裕也

■出演/満島ひかり、遠藤雅、相原綺羅、志賀廣太郎、岩松了

■日時/6月16日(火) ①PM2:00-、②PM4:30-、③PM7:00-

■場所/アスパ明石9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容/加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付/会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200~300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 149人(3月19日現在)

